SHARP

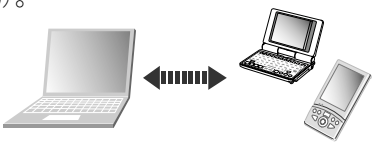
Intellisync™ for Zaurus Ver.3.0J

取扱説明書



こんなことができます

Intellisync for Zaurus Ver.3.0Jは、お使いのパソコンのMicrosoft Outlookのデータと、ザウルスSL-C700/SL-B500のデータをシンクロナイズ(同期)するソフトウェアです。たとえば、ザウルスのアドレス帳データを外出先で変更しても、オフィスのパソコンのデータを手作業で修正する必要はありません。Intellisync for Zaurusを使えば、メールやアドレス帳、ToDoなどのデータを、機器間で同じにし、常に最新の状態に保てます(本ソフトウェアはSL-A300には対応していません)。



Microsoft Outlookとシンクロナイズできます(☞17ページ)

Microsoft Outlookで管理しているPIMデータ(連絡先、予定表、仕事)やメールを、ザウルスのデータとシンクロナイズできます。
パソコンで受けとったメールをザウルスに読み込んで移動中に返事を書いたり、外出先で書きとめた予定をパソコンに保存したりすることが簡単に行えます。

Outlook	←→	ザウルス
連絡先	←→	アドレス帳
予定表	←→	カレンダー
仕事	←→	ToDo
メモ	←→	メモ帳(Memoタブ)
受信トレイ	←→	受信箱
送信トレイ	←→	送信箱

■ これまでザウルスパワーコネクションを使って MI シリーズザウルスとMicrosoft Outlookとの間でシンクロナイズをされていたお客様へ

ザウルスパワーコネクションを使ってOutlook上に移した MI シリーズザウルスの「アドレス帳」、「スケジュール」、「アクションリスト」、「メール」の各データを、Intellisync for Zaurusをお使いになることで、SL-C700/SL-B500に取り込むことができます。

Palm OS搭載機からザウルスにデータを移せます(☞33ページ)

今までPalm OS搭載機をお使いだったお客様は、蓄積したデータをザウルスで活用できます。
Palm OS搭載機のPIMデータ(アドレス、予定、ToDo、メモ帳)を、パソコンのPalm Desktopソフトウェア経由で、ザウルスに移せます(Palm Desktopソフトウェアは、Palm OS搭載機に付属)。

はじめに

お使いになる前に

本ソフトウェアの使用許諾契約について

お客様へのお知らせ：

以下の契約内容（以下、「本使用許諾契約」といいます）を注意深くお読みください。同梱されているPumatech, Inc.（以下、「Puma」といいます）のソフトウェアプログラム（以下、「本ソフトウェア」といいます）をお客様のコンピュータシステムまたはモバイル装置にインストールまたは使用することにより、お客様は自動的に本使用許諾契約に同意したものとします。本使用許諾契約を注意して読んだあと、お客様が、使用許諾契約の条項に同意されない場合は、速やかに本ソフトウェアをお客様のコンピュータシステムまたはモバイル装置から削除してください。

使用許諾：

Pumaは、お客様に対して、1台のコンピュータシステムまたはモバイル装置に対して、本ソフトウェアをインストールして使用することができる、非独占的権利を与えます。Pumaは、本ソフトウェアの使用許諾は、お客様が本契約の条項を遵守されることを条件とします。

著作権：

本ソフトウェアは、合衆国著作権法、日本国著作権法、および国際条約規定により保護されています。本ソフトウェアについての知的財産権に対するいかなる権限もお客様に移転されるものではないことをご了解ください。さらに、本ソフトウェアについての権限および完全なる所有権は、Pumaの独占的財産権として存続すること、および、本使用許諾契約に明示に定められる場合を除き、お客様は本ソフトウェアについて、いかなる権利も取得するものではないことをご了解ください。本ソフトウェアのすべてのコピーは、本ソフトウェアの上部および内部に表示されるのと同一の所有権表示を含むことをご承諾ください。お客様は、本使用許諾契約に基づきお客様によって作成された本ソフトウェアのすべてのコピーについての正確な記録を保管しなければならないことに同意したものとみなします。

使用上の禁止事項：

事前にPumaの書面による許可を入手することなく、以下の行為を行うことはできません。(a)本使用許諾契約に明示に定められる場合を除き、本ソフトウェアもしくはこれに関する書面を使用、複製、修正、変更または譲渡すること、(b)本ソフトウェアを翻案、逆アセンブル、逆コンパイル、プログラムの置き換えもしくはその他の方法により、リバースエンジニアリングすること、(c)本ソフトウェアをレンタル、タイムシェアリングもしくはコンピュータサービス業務において使用すること。お客様が本使用許諾契約の条項に違反した場合は、Pumaは、他のすべての権利を損なうことなく、本使用許諾契約を解除することができます。このような場合、お客様は、本ソフトウェアのすべてのコピーを破棄してください。

限定保証：

Pumaは、本ソフトウェアが購入された日から30日間の期間内において、付属の文書の記述に従って機能することを保証するものです。ソフトウェアに関する黙示保証はこの30日間に限定されます。

エンドユーザーへの補償：

本ソフトウェアが上記の「限定保証」条項に適合しなかった場合のPumaの全責任とこれに対する唯一の救済は、Pumaの裁量により、(a.)エラーを修正する、または(b.)エラーの解決法を見つける、のいずれかに限られます。ソフトウェアの欠陥が、事故、悪用、または誤用によるものである場合は、限定保証は無効となります。交換されたソフトウェアはご購入当初の限定保証期間中保証されます。

免責事項：

Pumaは、「限定保証」条項で明記した保証以外には、本ソフトウェアに対するいかなる保証も致しません。Pumaは、ソフトウェアに対し明示、黙示を問わず、商品適性、特定用途に対する適合性、および第三者による著作権などの権利の非侵害性に関していかなる保証も行いません。法域によっては、黙示保証や黙示保証の保証期間の除外、または偶発的損害の制限の除外を認めていないため、上記の制限または除外がお客様に適用されない場合もあります。この保証は、お客様に対して特定の法律上の権利を与えるものです。また、法域によっては、その他の権利が適用されることもあります。

結果的損害に対する責任の排除：

いかなる場合においても、Pumaは、たとえPumaがそのような損害の発生の可能性について知っていた場合においても、本ソフトウェアまたは使用から生じる結果的損害、特別損害、付随的損害またはその他のあらゆる種類の間接損害についての責任を負いません。

商標/登録商標一覧

- Pumatech、Pumatechのロゴ、Puma Technology、Puma Technologyのロゴ、DSX Technology、DSX Technologyのロゴ、Intellisync、Intellisyncのロゴ、およびIntellisync ReadyのロゴはPumatech, Inc.の商標または登録商標です。
- Microsoft、Windows、Outlookは、米国マイクロソフト社の米国およびその他の国における登録商標です。
- Intel、Pentiumは、米国インテル社の登録商標です。
- SD SDロゴは商標です。
- Adobe、Acrobatは、米国アドビシステムズ社の商標です。
- その他の会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

このソフトウェアは、アメリカ合衆国特許5,392,390、5,666,553、5,684,990、5,701,423、5,943,676、6,141,664および6,212,529により保護されています。その他の特許は申請中です。

取扱説明書について

- 本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- 本書に記載の画面やアイコンは、実際のパソコン上のものとは異なることがあります。

知っておいてください

このソフトウェアについて

・このソフトウェアは、シンクロナイズできるフィールド(各データの要素)に一部制限があります。初期設定の状態でお使いになることをおすすめします。
・パソコンとザウルスを「USB接続(ネットワーク)」で接続しているとき、このソフトウェアの動作が不安定な場合は、パソコン起動時に自動的に起動するウイルス対策ソフトやファイアウォールソフトを停止させるか無効に設定してください。
・このソフトウェアがシンクロナイズの対象とするのは1980年1月1日(GMT)～2037年12月31日(GMT)までのデータです。この期間を外れるデータはシンクロナイズされません(GMT:グリニッジ標準時)。
・このソフトウェアは、複数のザウルスを同時にシンクロナイズすることはできません。1台のパソコンでシンクロナイズできるのは、1台の製品だけです。1台のパソコンをマルチユーザー設定で使用しているときは、このソフトウェアをインストールしたユーザーだけがシンクロナイズできます。
・シンクロナイズの開始の前にザウルスとパソコンの時刻を合わせておいてください。

その他のアプリケーションについて

・シンクロナイズするときは、あらかじめザウルスの全アプリケーションを終了してから、シンクロナイズしてください。
・Microsoft Outlookをアップデートすると、データのセキュリティは向上しますが、このソフトウェアの機能が一部制限を受ける可能性があります。
・Palm OS搭載機のPIMデータをザウルスに移すときは、あらかじめPalm Desktopソフトウェアを終了してください。

シンクロナイズするデータについて

・Microsoft OutlookやPalm Desktopソフトウェアでプライベートデータに設定されたデータは、シンクロナイズするとザウルスにデータが転送されますが、ザウルス側ではプライベートに設定されません。
・データに使用されている文字種(シンボル文字、欧文文字の一部、特殊文字)によっては、シンクロナイズの結果、文字化けが発生したり、データが損なわれたりします。

機器の接続について

・いったん取り外したUSBケーブルを、もう一度ザウルスに接続するときは、約30秒待ってから接続してください。取り外したあと、すぐに接続すると、ザウルスがUSB機器として適切に認識されないことがあります。

ヘルプについて

・このソフトウェアでは、ヘルプファイルを参照することができます。この取扱説明書に掲載されていない項目や機能の説明については、ヘルプファイルをご覧ください。
なお、ヘルプファイルを表示するには、画面上の[ヘルプ]ボタンをクリックするか、[スタート]ー[(すべての)プログラム]ー[Sharp Zaurus 2]ー[Intellisync for Zaurus]ー[ヘルプ]をクリックします。

もくじ

こんなことができます 2

はじめに 3

お使いになる前に 3

・本ソフトウェアの使用許諾契約について 3

・商標/登録商標一覧 4

・取扱説明書について 4

・知っておいてください 5

準備 8

対応OSと動作環境について 8

Intellisync for Zaurusのインストールについて 9

・Intellisync for Zaurusをアンインストール(削除)するには 10

通信設定の確認と変更 11

・パソコン側の「ザウルス通信マネージャー」の設定を確認する 11

・パソコン側の「クレードル起動設定」を確認する 14

・ザウルス側の設定を確認する 15

まず使ってみましょう 17

Outlookとシンクロナイズ(同期)する 17

・1 シンクロナイズの設定をする 18

・2 シンクロナイズを実行する 21

・■ シンクロナイズにおける注意事項 23

メールのシンクロナイズの要点 25

・1 ザウルス側のシンクロナイズ用メールフォルダを確認する 25

・2 シンクロナイズの設定をする 26

・3 シンクロナイズを実行する 27

・4 ザウルス側に取り込んだメールを読む 27

メールのシンクロナイズ時にフィルタを使う 28

・フィルタの設定方法 28

ザウルス側からシンクロナイズを開始するには 31

・ 準備(確認) 31

・ ザウルス側の操作方法 31

Intellisync for Zaurus フォルダを使う 32

もっと活用しましょう 33
Palm OS搭載機からデータを移す 33
・1 ザウルスにデータを移す前に 33
・2 データを移行するための設定をする 34
・3 データを移行する 36
シンクロナイズ(同期)の設定を変更する 38
・メールをシンクロナイズするときの設定を変更する 38
・フィールドの対応関係を確認または変更する 39
・データの矛盾が発生したときの解決方法を設定する 41
インポートとエクスポートについて 43
・インポートとエクスポートの設定と実行の方法 43
・インポートとエクスポートの動作に関する注意事項 44
付録 45
よくあるお問い合わせ 45
困ったときは 48
さくいん 52

準備

対応OSと動作環境について

Intellisync for Zaurusは、次のWindowsパソコンで動作します。

OS

日本語Microsoft® Windows® XP Home Edition/Professional、 Windows® Me、Windows® 2000 Professional、 Windows® 98/98SE

CPU

Intel® Pentium® 200MHz相当以上(300MHz以上推奨)

ハードディスク空き容量

80MB

メモリー

64MB以上(128MB以上推奨)
※Microsoft® Windows® XPの場合は128MB以上(192MB以上推奨)

CD-ROMドライブ

USBコネクター

アプリケーションソフトウェア

Microsoft Outlook 2002/2000/98/97

ザウルスの「カレンダー」、「アドレス帳」、「ToDo」、「メモ帳」(Memoタブ)、「メール」の各データとシンクロナイズを行うために必要です。

Palm Desktop ソフトウェア Ver.3.1

Palm OS搭載機からザウルスにデータを移したいときに必要です。
Palm OS搭載機のモデルによっては、そのモデル用のPalmDesktopソフトウェアVer.4.0が使用できる場合があります。

ご注意

- 自作機、Windows® 95からアップグレードしたパソコンでの動作は保証できません。
- 推奨環境のすべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。
- 市販のUSBハブを増設してお使いのときは、正しく動作しないことがあります。USBコネクターはパソコン本体に装備されているものをお使いください。

Intellisync for Zaurusのインストールについて

Intellisync for Zaurusを使うには、Intellisync for ZaurusおよびUSBドライバーをインストールする必要があります。
インストール方法については、ザウルス本体に付属の『はじめにお読みください』をご覧になり、付属のインストールCD-ROMを使ってインストールしてください。
これ以降、Intellisync for ZaurusやUSBドライバーをインストールしているものとして説明します。

Windows XP/ Windows 2000をお使いの方へ

- Windows XPでは、コンピュータの管理者のアカウントでログオンしてください。制限付きアカウントでログオンしていると、ソフトウェアをインストールできません。またインストールしたソフトウェアは、コンピュータの管理者でログオンしてお使いください。[スタート]をクリックして[ログオフ]をクリックして表示される画面で、コンピュータの管理者のアカウントを選んでログオンしてください。
- Windows 2000では、Administrator権限でログオンしてソフトウェアをインストールしてください。
  また、インストールしたソフトウェアは、Administrator権限でログオンしてお使いください。企業などでお使いのパソコンの場合、Administrator権限については、パソコンの管理者にご確認ください。
- このソフトウェアはマルチユーザー対応ではありません。
  1台のパソコンに、このソフトウェアを複数本インストールすることはできません。

インストール後のデスクトップについて

Intellisync for Zaurusをインストールすると、パソコンのデスクトップに「Intellisync for Zaurus」のショートカットアイコンが表示され、タスクバーには  が表示されます。



「Intellisync for Zaurus」ショートカットをダブルクリックすると、各機能のショートカットアイコンが収録されたフォルダが表示され、スタートメニューから選択して行う操作と同様の操作が行えます(☞32ページ)。



ザウルスのPCリンク画面の[シンクロ開始]、および別売のクレードル(SL-B500用のCE-ST9)のSYNCボタンを監視する「ザウルス通信マネージャー」が常駐して動いていることを示しています。ザウルス通信マネージャーの機能が停止しているときには、このアイコンは表示されません。

Intellisync for Zaurusをアンインストール(削除)するには

1 **ザウルスに付属のインストールCD-ROMからインストールしたソフトウェアが実行されている場合は、それらをすべて終了してください。また、タスクバーに表示されているアイコン( や )を右クリックして「終了」を選び、終了させます。**

2 **[スタート]ボタン→[設定]→[コントロールパネル]をクリックします。**
Windows XPの場合は、[スタート]ボタン→[コントロールパネル]をクリックしてください。
「コントロールパネル」画面が表示されます。

3 **「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。**
Windows XPの場合は、「プログラムの追加と削除」をクリックしてください。

4 **「Sharp Zaurus ソフトウェア」を選択します。**

5 **[追加と削除]をクリックします。**
Windows XP の場合は、[変更と削除]をクリックしてください。
Windows 2000 の場合は、[変更／削除]をクリックしてください。

6 **確認画面を読み、問題なければ[OK]をクリックします。**

7 **「変更」を選択し、[次へ]をクリックします。**
インストール時と同様の「通信方法の選択」画面が表示されます。

8 **前回インストールしたときと同じ通信方法を選択し、[次へ]をクリックします。**
「アプリケーションの選択」画面が表示されます。

9 **「Intellisync for Zaurus」のチェックをはずし、[次へ]をクリックします。**
Intellisync for Zaurusがアンインストール(削除)されます。

10 **確認画面を読み[OK]をクリックします。**

11 **「メンテナンスの完了」画面で「はい、今すぐコンピュータを再起動します」を選択し、[完了]をクリックします。**
パソコンが再起動します。

MEMO
- 上記の手順**7**で「削除」を選択して[次へ]をクリックすると、インストールCD-ROMからインストールされたすべてのアプリケーションをアンインストールすることができます。

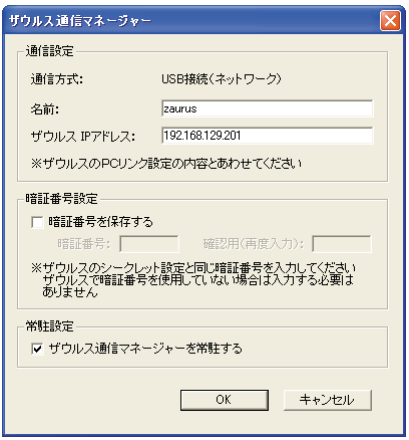
通信設定の確認と変更

ザウルスに付属のインストールCD-ROMからパソコン用ソフトウェアをインストールする際、通信方法の設定で「USB接続（シリアル通信）」を選択し、かつインストールしたパソコン用ソフトウェアの「ザウルス通信マネージャー」とザウルスの「PCリンク」を初期の設定内容から変更しなかった場合には、以下の確認は不要です。17ページの「まず使ってみましょう」に進んでください。

パソコン側の「ザウルス通信マネージャー」の設定を確認する

Intellisync for Zaurusを使って、Outlookのデータとザウルスのデータとをシンクロナイズするには、通信に関する設定が正しくなされている必要があります。「ザウルス通信マネージャー」画面の設定内容を次の手順で確認し、必要に応じて変更してください。
なお、ザウルス通信マネージャーの設定内容は、ザウルスに付属のインストールCD-ROMからインストールしたパソコン用ソフトウェアすべてに適用されます。

1 タスクバーの を右クリックし、メニューの「設定」をクリックします。
タスクバーに が表示されていないときには、[スタート]－[（すべての）プログラム]－[Sharp Zaurus 2]－[ザウルス通信マネージャー]をクリックしてください。
「ザウルス通信マネージャー」画面が表示されます。



MEMO ● 通信方式が「USB接続（シリアル通信）」のときは、「通信方式」の下の「名前」と「ザウルスIPアドレス」の欄は薄く表示されます（設定不要）。

2 「通信設定」の欄を確認します。

通信方式：
シンクロナイズを実行するには、パソコンとザウルスの間の通信方式を合わせる必要があります。ここにはインストール時に選択された通信方式が表示されますので、この通信方式をザウルスのPCリンク画面で設定します。

名前：
通信方式が「USB接続（ネットワーク）」の場合に、「名前」の設定が有効となります。
この「名前」の項目には、ザウルス側の「PCリンク」画面に表示されている「名前」と同じものを入力します。初期値は「zaurus」です。

ザウルスIPアドレス：
通信方式が「USB接続（ネットワーク）」の場合に、「ザウルスIPアドレス」の設定が有効となります。
シンクロナイズを行うには、「ザウルスIPアドレス」の項目に、ザウルスのIPアドレスが設定されている必要があります。ザウルスのIPアドレスは、ザウルス本体の「PCリンク」画面で確認できます（☞15ページ）。
IPアドレスは、インストール時に設定されています。通常は、変更しないで、ご購入時の状態でお使いください。よくわからないまま変更すると、パソコンとザウルスが通信できなくなります（ご購入時の状態：192.168.129.201）。

3 「暗証番号設定」の欄の設定を確認します。

「暗証番号設定」は、Intellisyncなどのパソコン用ソフトウェアを特定のザウルスとだけ通信させたいときに設定します。そのときは、ザウルス側での暗証番号の設定も必要です。
ザウルス側で「シークレット設定」により暗証番号が登録されているときにシンクロナイズを開始すると、この「ザウルス通信マネージャー」画面の「暗証番号設定」で暗証番号が設定されているかどうかがチェックされ、設定されていたときには、その暗証番号の付き合わせが行われ、一致すれば通信が開始できます。
もし、「ザウルス通信マネージャー」画面の「暗証番号設定」で暗証番号が設定されていなかったときには、暗証番号を入力するための画面が表示されます。
逆に、この「ザウルス通信マネージャー」画面の「暗証番号設定」で暗証番号が設定されているときに、暗証番号が登録されていないザウルスとシンクロナイズしようとすると、警告メッセージが表示されます。
シンクロナイズ開始時に毎回暗証番号を入力しないようにするには、「暗証番号設定」で「暗証番号を保存する」にチェックを入れ、ザウルスと同じ暗証番号を入力します。

4 **「常駐設定」の欄の設定を確認します。**

「常駐設定」は、ザウルス側からのシンクロナイズの開始を行うときに設定します。

ザウルス側からシンクロナイズを開始するには、次の方法があります。

・ザウルスの「PCリンク」画面の[シンクロ開始]にタッチする
・SL-C700の場合、キーボード上の(カレンダー)(Sync)キーを約2秒押しつづける
・SL-B500を別売のクレードル(CE-ST9)に装着し、クレードルのSYNCボタンを押す

「常駐設定」で「ザウルス通信マネージャーを常駐する」を選択すると、ザウルス通信マネージャーがシステムに常駐してタスクバーにアイコン()が表示されます。その状態で同時に「クレードル起動設定」画面でクレードルからの起動を「する」に設定していると、ザウルス側からシンクロナイズを開始することができます。

「ザウルス通信マネージャーを常駐する」のチェックを外して[OK]をクリックすると、ザウルス通信マネージャーのアイコン()がタスクバーに表示されますが、パソコンを次に起動したとき、タスクバー上にはアイコン()は表示されません。

5 **上記の設定内容を確認し、問題なければ[OK]をクリックします。**

パソコン側の「クレードル起動設定」を確認する

ザウルス側からシンクロナイズを開始するには、ザウルス通信マネージャー画面の「常駐設定」欄の「ザウルス通信マネージャーを常駐する」にチェックを入れておき、同時に「クレードル起動設定」の「クレードルからの起動」を「する」に設定しておく必要があります。

1 **[スタート]ボタン－[(すべての)プログラム]－[Sharp Zaurus 2]－[Intellisync for Zaurus]－[クレードル起動設定]とクリックします。**
「Intellisync for Zaurus」画面が表示されます。



2 **「クレードルからの起動」の欄の設定内容を確認します。**
「する」が選択されると、ザウルス通信マネージャー画面の「常駐設定」欄の「ザウルス通信マネージャーを常駐する」にチェックが入っていた場合、ザウルス側からシンクロナイズを開始することができます。
「しない」が選択されると、ザウルス側からシンクロナイズを開始することができません。

3 **[OK]をクリックします。**
設定内容が登録されます。

MEMO ●[ザウルス通信マネージャー]をクリックすると、ザウルス通信マネージャー画面が表示されます(☞11ページ)。

ザウルス側の設定を確認する

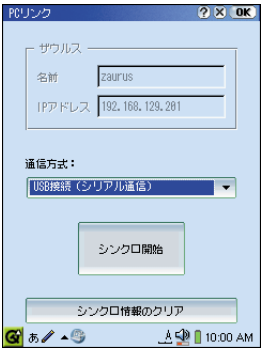
パソコン側の「ザウルス通信マネージャー」画面の設定と、ザウルス側の「PCリンク」画面および「シークレット設定」画面の設定が合っているか確認をします。

1 **設定ホーム画面で “PCリンク”を起動して、「PCリンク」画面を表示します。**

C700



B500



2 **画面中央の 通信方式の設定を確認します。**

ザウルスに付属のインストールCD-ROMからパソコン用ソフトウェアをインストールしたときに、選択した通信方式（「USB接続（シリアル通信）」か「USB接続（ネットワーク）」）に合わせて設定します。

パソコン側で設定されている通信方式は、「ザウルス通信マネージャー」の「通信設定」欄に表示されています。

3 **通信方式が「USB接続（ネットワーク）」に設定されているときは、「ザウルス」欄の「名前」と「IPアドレス」が濃く表示されますので、その内容を確認します。**

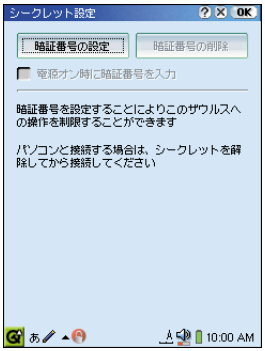
「名前」、「IPアドレス」とも、パソコン側の「ザウルス通信マネージャー」画面の「通信設定」内の「名前」と「ザウルスIPアドレス」の内容と一致しているかどうか、確認します。

名前とIPアドレスについて：
名前とIPアドレスは、工場出荷時に設定されています。通常は、変更しないで、ご購入時の状態でお使いください。よくわからないまま変更すると、パソコンとザウルスが通信できなくなります。
ご購入時の状態：

名前	：zaurus
IPアドレス	：192.168.129.201

4 **ザウルス側の「PCリンク」画面で、上記の設定内容を確認し、OKキーを押して登録します。**

5 **ザウルス側の「シークレット設定」で暗証番号を設定したかどうかにより、次の確認をします。**
ザウルスの「シークレット設定」で暗証番号が設定されている場合、パソコン側の「ザウルス通信マネージャー」画面で設定した暗証番号（☞11ページ）と同じかどうか、確認します。
ザウルス側で暗証番号が設定されていなかった場合は、パソコン側の「ザウルス通信マネージャー」画面で暗証番号を設定する必要はありません。また逆に、パソコンの「ザウルス通信マネージャー」側で暗証番号が設定されていなければ、ザウルス側の「シークレット設定」画面で暗証番号を設定する必要はありません。



※ザウルス側で「シークレット設定」を表示するには、設定ホーム画面で“シークレット設定”を起動します。

ご注意 ●「USB接続（ネットワーク）」の通信方式で「ザウルスドライブ（ネットワーク）」を使用するときは、ザウルスのシークレット設定画面で「電源オン時に暗証番号を入力」のチェックを外しておいてください。チェックが入っていると、正しく通信できません。

まず使ってみましょう

Outlookとシンクロナイズ(同期)する

Microsoft Outlookとザウルスで、PIMデータやメールをシンクロナイズします。Intellisync for Zaurusの詳細な設定や、より高度なシンクロナイズについてはあとで説明します。ここでは操作の流れをマスターしてください。

ザウルス	←→	Outlook
アドレス帳	←→	連絡先
カレンダー	←→	予定表
ToDo	←→	仕事
メモ(※1)	←→	メモ帳
受信箱(※2)	←→	受信トレイ
送信箱(※2)	←→	送信トレイ

(※1) メモ帳のMemoタブがシンクロナイズの対象となります。
(※2) ザウルス側の「メール」のメールフォルダー一覧に表示されている「シンクロナイズ」の中の「送信箱」、「受信箱」がシンクロナイズの対象となります。

MEMO
- ここでは、スタートメニューからの操作で説明しています。同様の操作は、Intellisync for Zaurusショートカットアイコンを使っても行えます。
- このソフトウェアは、HTML 形式のメールのシンクロナイズに対応していません。テキスト形式のメールのみシンクロナイズが可能です。
- Microsoft Outlookを起動するとメールを自動的に送受信する設定にしている場合は、送信トレイに転送されたメールは自動的に送信され、送信済トレイに入ります。自動的に送信したくない場合は、その設定を解除してください。操作方法はMicrosoft Outlookの取扱説明書をご覧ください。
- **Windows XPではコンピュータの管理者のアカウントで、Windows 2000ではAdministrator権限でログオンしてお使いください**(☞9ページ)。
- 操作手順の画面例はすべてWindows XPのものです。

ご注意
- **シンクロナイズを行うには、**
  ①シンクロナイズの設定をする(☞次ページ)
  ②シンクロナイズを実行する(☞21ページ)
  の手順で進めてください。
  - シンクロナイズ実行中は、ザウルスにACアダプターを装着してお使いください。
  - シンクロナイズ実行中は、ザウルスの電源を絶対に切らないでください。また、USBケーブルやクレードル(SL-B500の場合)を取り外さないでください。

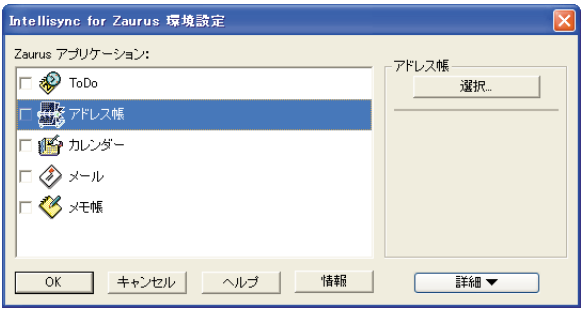
1 シンクロナイズの設定をする

シンクロナイズするアプリケーションの組み合わせを設定します。
同じ組み合わせでシンクロナイズするときは、次回からこの設定作業は必要ありません。

1 **[スタート]をクリックし、[(すべての)プログラム]ー[Sharp Zaurus 2]ー[Intellisync for Zaurus]ー[環境設定]をクリックします。**
「Intellisync for Zaurus環境設定」画面が表示されます。

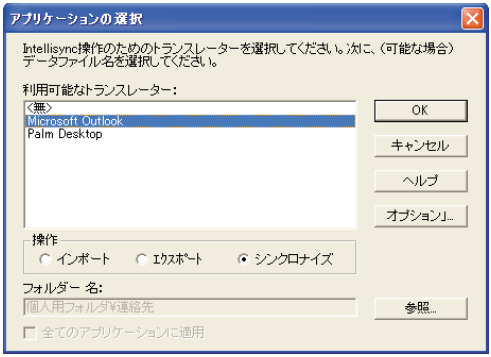
MEMO
- 手順**1**の代わりにデスクトップ上のIntellisync for Zaurus フォルダの「環境設定」をダブルクリックしても、同じ働きをします(☞32ページ)。

2 **ザウルスのアプリケーション(ここではアドレス帳)をクリックして選択し、[選択...]をクリックします。**



「アプリケーションの選択」画面が表示されます。

3 シンクロナイズする「Microsoft Outlook」をクリックして選択し、「シンクロナイズ」にチェックがついていることを確認します。



4 [OK]をクリックします。

「Intellisync for Zaurus環境設定」画面に戻ります。

アドレス帳とMicrosoft Outlookが「⟷」で結ばれます。



アプリケーションの名前の横にチェックがついていることを確認してください。

チェックを外すと、組み合わせの設定だけが保存され、データのシンクロナイズは行われません。

5 **手順2〜4を繰り返し、アプリケーションの組み合わせを設定します。**
全アプリケーションを設定しなくてもかまいません。
データをシンクロナイズしたいアプリケーションだけ設定してください。

6 **[OK]をクリックします。**



「Intellisync for Zaurus環境設定」画面が閉じます。
これで、シンクロナイズの設定は完了です。

MEMO
- 「Intellisync for Zaurus環境設定」画面の[詳細 ▼]をクリックして「詳細設定」を選び、より詳細な設定(矛盾した場合の回避方法など)を行うこともできます(☞41ページ)。
- 「アプリケーションの選択」画面に、フォルダ名欄が表示されているときは、[参照...]をクリックしてシンクロナイズ可能な他のフォルダを選択することもできます。
- パソコン側アプリケーションによっては、「アプリケーションの選択」画面にフォルダ名(またはファイル名)欄が表示されないことがあります。この場合は、最後に使用したファイルがシンクロナイズの対象になります。
- 「Intellisync for Zaurus環境設定」画面で[詳細 ▼]、「パスワード環境」をクリックすると、「パスワード設定」画面が表示されます。ここでパスワードを設定すると、環境設定画面を開くときにパスワードの入力が必要となりますので、自分以外の人による環境設定の変更を防止することができます。

2 シンクロナイズを実行する

設定(☞18〜20ページ)を終えたら、シンクロナイズを実行します。

ご注意

- **シンクロナイズを行う前に**
  - 18〜20ページのシンクロナイズの設定を完了してください。
  - 23〜24ページの「シンクロナイズにおける注意事項」をご確認ください。
- **シンクロナイズに失敗しないように、次のことをお守りください。**
  - 必ずACアダプターをお使いください。
  - ザウルスのメモリーの空き容量を十分確保してください。不足していると、正しくシンクロナイズされないおそれがあります。
  - シンクロナイズの処理中は、ザウルスを操作しないでください。

1 ザウルスの電源を切った状態でパソコンに接続し、ザウルスの電源を入れます(☞ザウルス本体に付属の『はじめにお読みください』)。

ザウルスとパソコンは、付属のUSBケーブル(SL-B500の場合はUSBアダプターも使用)で接続します。また、SL-B500では別売のクレードル(CE-ST9)で接続することもできます。

2 [スタート]ボタンをクリックし、[(すべての)プログラム]ー[Sharp Zaurus 2]ー[Intellisync for Zaurus]ー[シンクロナイズ開始]をクリックします。



3 ザウルスとパソコンとの接続を確認して、[OK]をクリックします。

シンクロナイズが始まり、進行状況を示す画面が表示されます。
シンクロナイズが完了すると、表示されていた画面が消えます。

※ザウルスの「シークレット設定」で暗証番号が設定されていて、パソコン側の「ザウルス通信マネージャー」で暗証番号が設定されていない場合は、ここで暗証番号の入力を促すウィンドウが表示されます。ザウルスで設定したのと同じ暗証番号を入力します。

※シンクロナイズがうまくできないときは、45ページの「よくあるお問い合わせ」の「Q シンクロナイズができない」の項およびそれ以降を参照してください。

MEMO
- 手順**2**の代わりにIntellisync for Zaurus フォルダの「シンクロナイズ開始」をダブルクリックしても、同じ働きをします。
- **別売のクレードル(CE-ST9)のSYNCボタンを使ってSL-B500とのシンクロナイズを開始するには**
  [スタート]ボタンをクリックし、[(すべての)プログラム]ー[Sharp Zaurus 2]ー[Intellisync for Zaurus]ー[クレードル起動設定]をクリックして、表示される画面で「クレードルからの起動」を「する」に設定しておくと、手順**2**の代わりにクレードルのSYNCボタンを押しても、同じ働きをします。
- 最初のシンクロナイズには少し時間がかかります。これは、データのシンクロナイズに必要な「**ヒストリファイル**」が、最初のシンクロナイズのときに作成されるためです。ヒストリファイルとは、データの変更部分を定義して記録しているファイルです。次回以降のシンクロナイズは、既存のヒストリファイルが使用されるため、処理時間が短くなります。
- ザウルスとOutlookのアプリケーション間でリンクされている項目のみ、データのシンクロナイズは行われます。通常は、初期設定のままお使いになることをおすすめします。
  ※ ザウルスとOutlookのアプリケーション間での項目のリンクを確認するには、39ページの「フィールドの対応関係を確認または変更する」をご覧ください。
- メールの添付ファイルもシンクロナイズされます。
- メールの発信者が使用するメールソフトによっては、正しくシンクロナイズされないことがあります。

「アドレス帳の修正内容を確認してください」などの確認画面が表示されたら

変更し、シンクロナイズを続行するときは[適用]をクリックします。
変更しないときは、[キャンセル]をクリックします。
シンクロナイズを続行して結果がどうなるかを正確に知りたいときは、[詳細]をクリックします。

途中でシンクロナイズを停止するには

進行状況を示す画面で、[キャンセル]をクリックし、「キャンセルされました」とメッセージが表示されたら[OK]をクリックします。
通信途中のセクションを最後までシンクロナイズしてから停止します。
また、ザウルスで停止する場合は、[キャンセル]にタッチします。

「矛盾回避の結果」画面が表示されたら

パソコンのデータと、ザウルスのデータに矛盾があるときは、「矛盾回避の結果」画面が表示されます(☞次ページ「データの矛盾とは?」)。
対応方法を[更新][追加][無視]の中から選び、[OK]をクリックします。
最初のシンクロナイズでは、標準の矛盾回避設定が適用されます。矛盾回避方法は、「Intellisync for Zaurus 環境設定」画面の[詳細 ▼]、[詳細設定]をクリックし、「矛盾回避の結果」タブを使って変更することができます(☞41ページ)。

データの矛盾とは?

このソフトウェアは、「キーフィールド」の値が一致するデータを、同じデータと認識してシンクロナイズを行います。下の例では「名前」と「会社名」がキーフィールドで、値は「山田明宏」、「コスモデザイン(株)」で一致するため、この2つは同じデータとみなされます。

アドレス帳データの例

	ザウルス		Outlook	
名前	：山田明宏	←→	山田明宏	← キーフィールド
会社名	：コスモデザイン(株)	←→	コスモデザイン(株)	← キーフィールド
役職	：チーフデザイナー	←→	部長	

データの矛盾は、キーフィールドの値が同じで、他の値が異なるときに発生します。上の例では、「役職」の値「チーフデザイナー」と「部長」が異なるため、データの矛盾が発生します。(最初のシンクロナイズまたは完全再シンクロナイズのときには、すべてのデータが比較されます)

通信エラーが発生したら

パソコンとの接続と、シンクロナイズの設定を確認してから、もう一度シンクロナイズしてください(☞48ページ「困ったときは」)。

最初のシンクロナイズで通信エラーが発生したときは、ヒストリファイルは作成されません。次回のシンクロナイズで作成されます。

■シンクロナイズにおける注意事項

カレンダーのシンクロナイズについて

- 初期の設定では、過去のスケジュールはシンクロナイズの対象外となっています。すべてのスケジュールをシンクロナイズの対象とするには、「Intellisync for Zaurus環境設定」画面で「カレンダー」を選んで[詳細 ▼]、「詳細設定」をクリックし、「カレンダーの詳細設定」画面で、「期間指定」タブを選択し、「全予定表データを転送」にチェックを入れてください。
  設定の変更のしかたについては38〜42ページの「シンクロナイズ(同期)の設定を変更する」を参考にしてください。
- アラーム音の設定は、シンクロナイズの対象にはなりません。Outlookからザウルスに、あるいはザウルスからOutlookに追加されたデータは、すべて「アラーム音あり」になります。
- 繰り返し回数指定のあるスケジュールは、正しくシンクロナイズできないことがあります。
- 「毎年」の繰り返しのスケジュールで、曜日指定されたスケジュール(たとえば、6月の第1日曜日など)は正しくシンクロナイズできません。
- Outlook側で同じスケジュールが繰り返し登録されていた場合、その中のどれかの内容を変更すると、正しくシンクロナイズされません。

アドレス帳のシンクロナイズについて

- ザウルスのアドレス帳のメールアドレス欄に、メールアドレスがコンマで区切られて3個まで登録されていると、シンクロナイズ後のOutlook側の連絡先では、それぞれのアドレスが「電子メール」、「電子メール2」、「電子メール3」に入ります。また、その逆も可能です（メールアドレスの対応個数は3個まで）。

ToDoのシンクロナイズについて

- 初期の設定では、未完了のデータのみがシンクロナイズの対象となっています。すべてのToDoデータをシンクロナイズの対象にするには、「Intellisync for Zaurus環境設定」画面で「ToDo」を選んで[詳細 ▼]、「詳細設定」をクリックし、「ToDoの詳細設定」画面で「ToDo」タブを選択し、「全データを転送」にチェック入れてください。
  設定の変更のしかたについては38～42ページの「シンクロナイズ（同期）の設定を変更する」を参考にしてください。
- ザウルスのToDoデータに「期限日」が設定されていなかった場合、シンクロナイズしてOutlookに取り込まれたそのデータの「期限」は、開始日の日付になります。

MEMO
- メールのシンクロナイズについては、25ページの「メールのシンクロナイズの要点」および28ページの「メールのシンクロナイズ時にフィルタを使う」をご覧ください。

MIシリーズのデータをOutlook経由で取り込むとき

MIシリーズザウルスのデータを、ザウルスパワーコネクションを使ってOutlookに取り込み、そのデータをIntellisync for ZaurusでSL-C700/SL-B500とシンクロナイズを行うときには、次の点にご注意ください。

- MIシリーズザウルスから取り込んだOutlookの「連絡先」のデータの「会社」項目（会社名）の中に、改行コードを含んだデータがあった場合、シンクロナイズエラーとなることがあります。エラーになったときは、「連絡先」の「会社」項目内のデータから改行コードを削除し、再度シンクロナイズを行ってください。
- MIシリーズザウルスから取り込んだOutlookの「仕事」のデータをIntellisync for Zaurusを使ってSL-C700/SL-B500の「ToDo」に取り込んだ場合、「優先度」（重要度）のデータが正しく取り込まれないことがあります。そのときは、SL-C700/SL-B500側で重要度の付け直しをしていただきますようお願いします。その後のOutlookとSL-C700/SL-B500とのシンクロナイズでは、優先度（重要度）が次のように反映されます。

Outlookの「仕事」の優先度		SL-C700/SL-B500の「ToDo」の重要度
高	←	1-非常に高い
高	←→	2-高い
普通（標準）	←→	3-普通
低	←→	4-低い
低	←	5-非常に低い

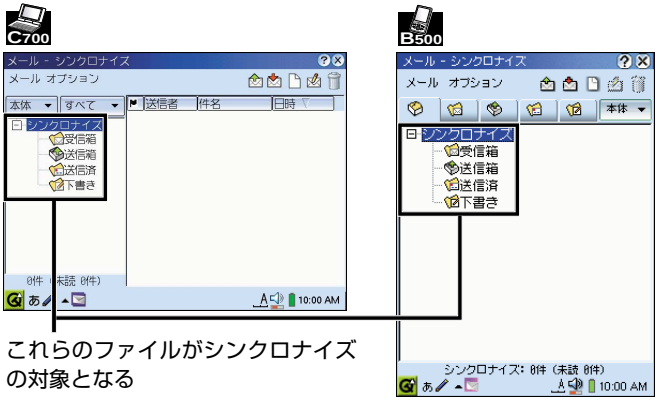
メールのシンクロナイズの要点

メールのシンクロナイズの操作は、17～24ページで説明した手順が基本となりますが、ここではメールのシンクロナイズに関する使いかたのポイントを説明します。

Outlookとザウルスとの間でメールのシンクロナイズを行う場合、Outlookの「受信トレイ」にある受信メールをザウルスに取り込んで外出先で読み、あるいは外出先でザウルスで作成した未送信メールをパソコン（Outlook）に取り込んで送信するという使いかたが一般的です。以下では、その使いかたを前提にして説明します。

1 ザウルス側のシンクロナイズ用メールフォルダを確認する

ザウルス側では、「メール」アプリケーションのメールフォルダー覧内の「シンクロナイズ」メールフォルダがシンクロナイズの対象になります。ほかのアカウントのメールフォルダとはシンクロナイズできません。



- ザウルスに装着されているカードの「シンクロナイズ」メールフォルダを対象に、メールのシンクロナイズを行うことができます。シンクロナイズを実行する前に、ザウルスの「メール」アプリケーションを起動し、メールフォルダ一覧が表示されている画面で［本体▼］にタッチして、「CF」（コンパクトフラッシュメモリーカード）または「SD」（SDメモリーカード）を選んでください。指定のカードとシンクロナイズが実行されます。
- ザウルス側で作成したメールをOutlookに転送したいときには、そのメールを「シンクロナイズ」の「送信箱」に保存しておいてください。
  ※「下書き」フォルダに保存したときには、「下書き」フォルダをシンクロナイズの対象にするように、シンクロナイズ設定を変更する必要があります（☞次ページ）。

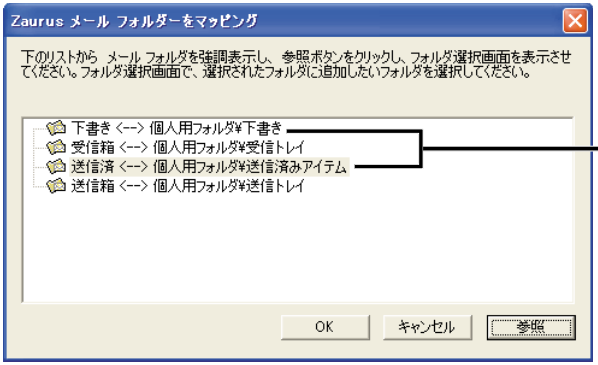
2 シンクロナイズの設定をする

シンクロナイズの設定の基本操作は18ページの説明のとおりです。「Intellisync for Zaurus環境設定」画面で「メール」にチェックを入れ、Outlookとシンクロナイズが可能となるよう設定を行います。

- パソコン側で受信または送信しているメールの件数が非常に多いときは、全メールをシンクロナイズの対象にすると、処理に時間がかかります。そこで、Outlookの受信トレイなどのメールをサブフォルダに分類して整理している場合には、それらのサブフォルダをシンクロナイズの対象に指定してシンクロナイズ対象の件数を絞り込むことにより、処理時間を短縮できます。指定方法は、下記の「下書き」や「送信済」フォルダをシンクロナイズの対象にする手順と同じです。
- メールの「下書き」、「送信済」フォルダもシンクロナイズの対象にすることができます。
  初期の設定では、下書きフォルダおよび送信済みフォルダはシンクロナイズの対象外となっています。下書きフォルダ、送信済みフォルダをシンクロナイズの対象とするには、メールの「アプリケーションの選択」画面(☞18〜19ページ)から[参照]をクリックして「Zaurus メール フォルダをマッピング」画面を表示し、それぞれ「下書き」および「送信済みアイテム」をマッピングしてください。

「下書き」の場合は次のように操作します。

1 「下書き」を選択し、[参照]をクリックします。
2 「下書きフォルダの選択」画面で「個人用フォルダ」の左側の ⊞ をクリックし、「下書き」を選択して[追加]をクリックします。
3 注意メッセージを読んで[OK]をクリックします。
4 [OK]を順次3回クリックします。
同様に「送信済」についてもマッピングを行うことができます。



- 添付ファイルをシンクロナイズしないようにするには、「Intellisync for Zaurus環境設定」画面で、〔詳細 ▼〕、「Zaurus オプション」をクリックし、表示された「Zaurus オプション」画面で「メールの添付ファイルをシンクロ対象にする」にチェックを外して〔OK〕をクリックします。
- 必要なメールだけを絞り込んでザウルスに取り込みたいときには、フィルタを使ってシンクロナイズを行います。その具体的な方法については、28ページの「メールのシンクロナイズ時にフィルタを使う」をご覧ください。

3 シンクロナイズを実行する

シンクロナイズの実行の基本操作は21ページの説明のとおりです。

- ザウルスのメールフォルダ一覧の「シンクロナイズ」メールフォルダ内の「送信箱」や「受信箱」に入っているメールは、Outlookの「送信トレイ」、「受信トレイ」にあるメールとシンクロナイズされます。
- シンクロナイズできるメールは32Kバイト（全角で約15,000字）に制限されているため、それを超える部分は切り取られます。
- 添付ファイルもシンクロナイズの対象になります。ただし、Outlookからザウルスに転送されるメールの添付ファイルをザウルスで取り扱うには、添付ファイルのサイズを約500Kバイト以下にしておいてください。
- Outlook側の1件のメールに同じファイル名のファイルが複数個添付されていた場合、ザウルスとシンクロナイズを行うと、エラーになってシンクロナイズを続行することができません。そのメールを削除するか、同じファイル名を持つ添付ファイルを外して1つだけにしてください。なお、メールのシンクロナイズの実行においては、ファイル名に関して英字の大文字／小文字の区別はなく、たとえばファイル名“abc.jpg”と“Abc.jpg”は同じファイルとして扱われます。
- ザウルス側の「送信箱」に入っていた未送信メールがシンクロナイズによりOutlookに取り込まれると、すぐに送信処理が実行されます（Outlook側でメール作成・登録後すぐに送信するように設定されていた場合）。

MEMO
- 添付ファイルの中身のみを修正してシンクロナイズした場合、そのメールデータはシンクロナイズの対象にはなりません。

4 ザウルス側に取り込んだメールを読む

- Outlookから取り込んだ未送信メールや受信メールは、「シンクロナイズ」メールフォルダ内の「送信箱」や「受信箱」に取り込まれます。
  Outlookから取り込んだメールをザウルスで読むには、メールフォルダ一覧の「シンクロナイズ」メールフォルダ内の「受信箱」、「送信箱」開いてください。

メールのシンクロナイズ時にフィルタを使う

ザウルスに取り込むメールの件数が多い場合には、「フィルタ」を使って、シンクロナイズするメールのデータを絞り込むことをお勧めします。

フィルタの設定方法

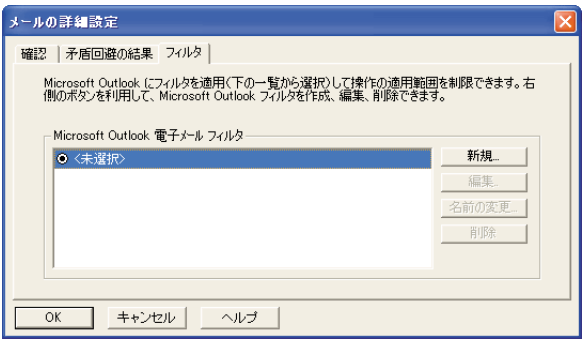
たとえば、「今日」Outlookに届いているメールだけをザウルスに取り込みたいときには、次のようにフィルタを設定します。

ご注意

- フィルタで設定した条件から外れるデータは、シンクロナイズを行うと、ザウルスから削除されます。ここの例では、Outlook側の「今日」のメールをザウルスに取り込んだ後、明日再び同じ条件でシンクロナイズを行うと、「今日」取り込んだメールはザウルスから削除されます。

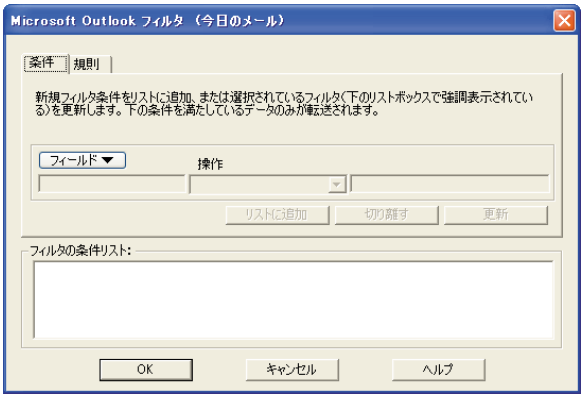
1 **「Intellisync for Zaurus環境設定」画面で「メール」を選択し（18ページの手順*1*～*2*を参照してください）、[詳細 ▼]、[詳細設定]をクリックします。**
「メールの詳細設定」画面が表示されます。

2 **「フィルタ」タブをクリックします。**



3 **[新規...]をクリックします。**

4 「フィルタ名」画面で、ここでは「今日のメール」と入力し[OK]をクリックします。
「Microsoft Outlookフィルタ（今日のメール）」画面が表示されます。

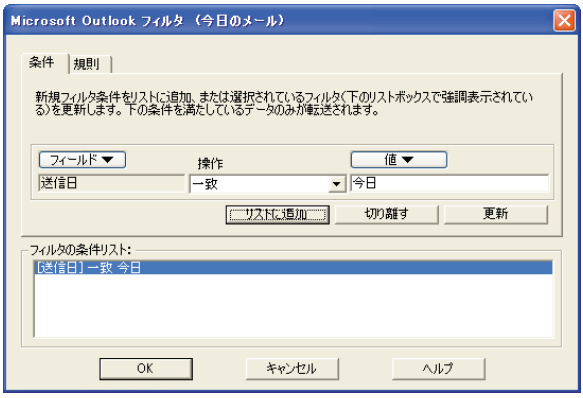


5 [フィールド ▼]をクリックし、メニューから「送信日」を選択します。

6 「操作」が「一致」になっていることを確認します。

7 [値]をクリックし、「今日」を選択します。

8 [リストに追加]をクリックします。
「フィルタ条件のリスト」欄に「[送信日] 一致　今日」が追加されます。



9 [OK]をクリックし、続いて「メールの詳細設定」画面でも[OK]をクリックします。

10 **「Intellisync for Zaurus環境設定」画面で、メールが選択され、その右横の欄に「フィルタ：今日のメール」が表示されていることを確認し、[OK]をクリックします。**

以上で、「今日」Outlookに届いているメールだけをザウルスに取り込むための設定が終了しました。
あとは、21ページの「シンクロナイズを実行する」を参照して、シンクロナイズを開始してください。

MEMO

- ある期間（たとえば2003年4月1日～2003年4月10日）に届いたメールをザウルスに取り込みたい場合には、「Microsoft Outlookフィルタ（フィルタ名）」画面で次のように設定します。

  フィールド　：送信日
  操作　　：間
  値　　：2003/04/01、2003/04/10

- いろいろな条件でフィルタを設定することができます。くわしくは、ヘルプの「レコードのフィルタ」をご覧ください。

ザウルス側からシンクロナイズを開始するには

通常は、[スタート]ボタンー[(すべての)プログラム]ー[Sharp Zaurus 2]ー[Intellisync for Zaurus]ー[シンクロナイズ開始]をクリックすることで、パソコン側の操作によりシンクロナイズを開始しますが、ザウルス側の操作によりシンクロナイズを開始させることもできます。

準備(確認)

- パソコン側の「ザウルス通信マネージャー」画面の「常駐設定」欄の「ザウルス通信マネージャーを常駐する」にチェックが入っていることを確認します(☞11ページ)。
  ザウルス通信マネージャーが常駐していると、タスクバーにアイコン()が表示されます。
- パソコン側の「クレードル起動設定」で「クレードルからの起動」欄が「する」に設定されていることを確認します(☞14ページ)。

ザウルス側の操作方法

上記の「準備(確認)」の状態でザウルス側から次のいずれかの操作を行うと、シンクロナイズを開始することができます。

・ザウルスの「PCリンク」画面の シンクロ開始 にタッチする
・SL-C700の場合、キーボード上の カレンダー (Sync)キー約2秒押しつづける
・SL-B500を別売のクレードル(CE-ST9)に装着し、クレードルのSYNCボタンを押す

Intellisync for Zaurusフォルダを使う

シンクロナイズの開始や環境設定などは、インストール後デスクトップに作成された「Intellisync for Zaurus」のショートカットアイコンをダブルクリックして表示される「Intellisync for Zaurusフォルダ」から行うことができます。



「Intellisync for Zaurusフォルダ」内のアイコンは、ダブルクリックで次のような働きをします。



シンクロナイズ開始
シンクロナイズの開始



クレードル起動設定
クレードルから起動する／しないの設定



環境設定
シンクロナイズするときの環境設定



ヘルプ
ヘルプの閲覧



バージョン情報
Intellisync for Zaurusのバージョン情報を表示

これらは、[スタート]ボタンー[(すべての)プログラム]ー[Sharp Zaurus 2]ー[Intellisync for Zaurus]をクリックして表示されるメニュー項目と同じ機能を持ちます。

もっと活用しましょう

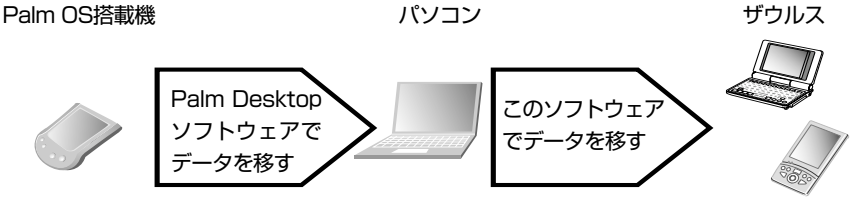
Palm OS搭載機からデータを移す

今までお使いだったPalm OS搭載機のPIMデータを、パソコンのPalm Desktopソフトウェア経由で、ザウルスに移します。

Palm Desktop	→	ザウルス
アドレス	→	アドレス帳
予定	→	カレンダー
ToDo	→	ToDo
メモ帳	→	メモ帳(Memoタブ)

操作の流れ

次のようにしてデータを移します。



MEMO
- ここでは、スタートメニューからの操作で説明しています。同様の操作は、Intellisync for Zaurus フォルダでも行えます(☞前ページ)。
- ここでの説明とは逆に、ザウルスのデータをPalm Desktopに移すことについては、動作保証いたしません。

1 ザウルスにデータを移す前に

Palm OS搭載機に保存しているPIMデータを、Palm DesktopソフトウェアのHotSync機能を使ってパソコンに移してください。
Palm Desktopソフトウェアは、Palm OS搭載機に付属しています。
くわしくは、Palm OS搭載機の説明書をご覧ください。

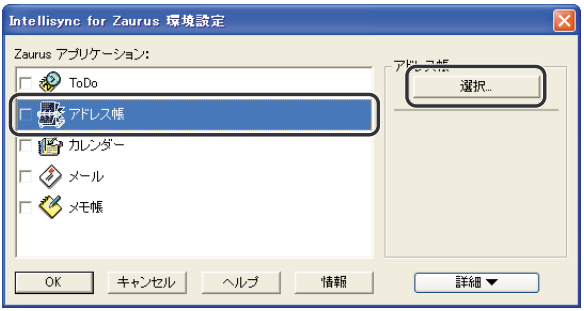
2 データを移行するための設定をする

Palm OS搭載機のPIMデータをパソコンに移したら、次は、パソコンからザウルスにデータを移します。
データを移行するときのアプリケーションの組み合わせを設定します。

1 **[スタート]をクリックし、[(すべての)プログラム]ー[Sharp Zaurus 2]ー[Intellisync for Zaurus]ー[環境設定]をクリックします。**
「Intellisync for Zaurus環境設定」画面が表示されます。

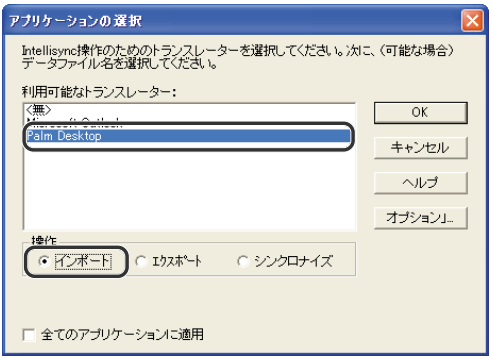
MEMO
- 手順**1**の代わりにIntellisync for Zaurusフォルダの「環境設定」をダブルクリックしても、同じ働きをします(☞32ページ)。

2 **ザウルスのアプリケーション(ここではアドレス帳)をクリックして選択し、[選択...]をクリックします。**



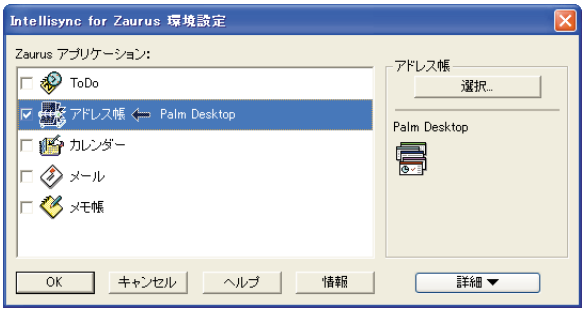
「アプリケーションの選択」画面が表示されます。

3 **「Palm Desktop」をクリックして選択し、「インポート」(読み込み)をクリックしてチェックをつけます。**



4 **[OK]をクリックします。**

「Intellisync for Zaurus環境設定」画面に戻ります。
アドレス帳とPalm Desktopが「⇐」で結ばれています。

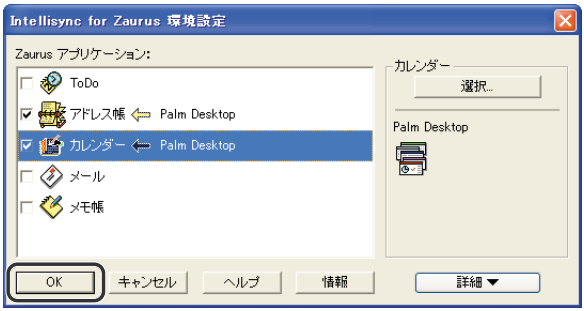


アプリケーションの名前の横にチェックがついていることを確認してください。
チェックを外すと、組み合わせの設定だけが保存され、データの読み込みは行われません。

5 **手順*2*～*4*を繰り返し、アプリケーションの組み合わせを設定します。**

全アプリケーションを設定しなくてもかまいません。
データを移したいアプリケーションだけ設定してください。

6 **[OK]をクリックします。**



「Intellisync for Zaurus環境設定」画面が閉じます。
これで、データを移行するための設定は完了です。

MEMO ●「Intellisync for Zaurus環境設定」画面の[詳細 ▼]、[詳細設定]をクリックして、より詳細な設定(矛盾した場合の回避方法など)を行うこともできます。

3 データを移行する

設定(☞34～35ページ)を終えたら、データを移します。

ご注意

- **データを移行する前に**
  - ・34～35ページのデータを移行するときの設定を完了してください。
  - ・シークレット(全機能ロック)の設定を解除してください。
- **データの移行に失敗しないように、次のことをお守りください。**
  - ・必ずACアダプターをお使いください。
  - ・ザウルスのメモリーの空き容量を十分確保してください。不足していると、正しくシンクロナイズされないおそれがあります。
  - ・シンクロナイズの処理中は、ザウルスを操作しないでください。

1 **ザウルスの電源を切った状態でパソコンに接続し、ザウルスの電源を入れます(☞ザウルス本体に付属の『はじめにお読みください』)。**

ザウルスとパソコンは、付属のUSBケーブル(SL-B500の場合はUSBアダプターも使用)で接続します。また、SL-B500では別売のクレードル(CE-ST9)で接続することもできます。

2 **[スタート]ボタンをクリックし、[(すべての)プログラム]ー[Sharp Zaurus 2]ー[Intellisync for Zaurus]ー[シンクロナイズ開始]をクリックします。**



3 **ザウルスとパソコンとの接続を確認して、[OK]をクリックします。**

データの移行が始まり、進行状況を示す画面が表示されます。
データの移行が完了すると、表示されていた画面が消えます。

※ ザウルスの「シークレット設定」で暗証番号が設定されていて、パソコン側の「ザウルス通信マネージャー」で暗証番号が設定されていない場合は、ここで暗唱番号の入力を促すウィンドウが表示されます。ザウルスで設定したのと同じ暗証番号を入力します。

MEMO

- 手順**2**の代わりにIntellisync for Zaurusフォルダの「シンクロナイズ開始」をダブルクリックしても、同じ働きをします。
- **別売のクレードル(CE-ST9)のSYNCボタンを使ってSL-B500とシンクロナイズするには**
  22ページの「MEMO」欄をご覧ください。

「アドレスを変更します」などの確認画面が表示されたら

変更し、データの移行を続行するときは[適用]をクリックします。
変更しないときは、[キャンセル]をクリックします。
データの移行を続行して結果がどうなるかを正確に知りたいときは、[詳細]をクリックします。

途中でデータの移行を停止するには

進行状況を示す画面で、[キャンセル]をクリックし、「キャンセルされました」とメッセージが表示されたら[OK]をクリックします。
通信途中のセクションを最後まで移してから停止します。
また、 ザウルスで停止する場合は、[キャンセル]にタッチします。
ただしザウルス側からの中断が有効になるのは、ザウルス通信マネージャーが常駐している場合(「通信設定」画面で「クレードルからの起動」を「する」に設定している場合☞14ページ)に限られます。また、処理のタイミングにより、すぐに中断できない場合があります。

「矛盾回避の結果」画面が表示されたら

パソコンのデータと、ザウルスのデータに矛盾があるときは、「矛盾回避の結果」画面が表示されます(☞23ページ「データの矛盾とは?」)。
対応方法を[更新][追加][無視]の中から選び、[OK]をクリックします。
データの移行では、標準の矛盾回避設定が適用されます。矛盾回避方法は、「Intellisync for Zaurus環境設定」画面の[詳細 ▼]、「詳細設定」をクリックし、「矛盾回避の結果」タブを使って変更することができます(☞41ページ)。

通信エラーが発生したら

パソコンとの接続と、データを移行するための設定を確認してから、もう一度データの移行を実行してください(☞48ページ「困ったときは」)。

シンクロナイズ(同期)の設定を変更する

このソフトウェアには多くの設定項目がありますが、ここでは使用頻度が高いと思われる項目のみ説明します。

メールをシンクロナイズするときの設定を変更する

シンクロナイズしたいメールについての設定内容を変更できます。

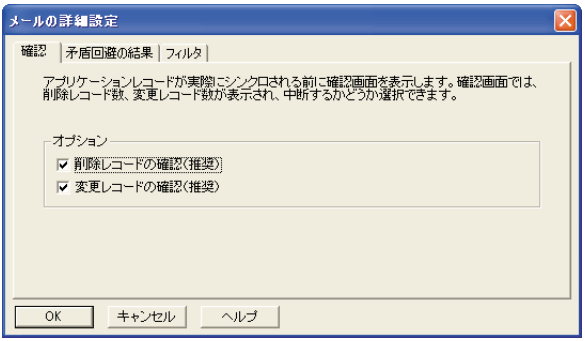
1 **[スタート]ボタンをクリックし、[(すべての)プログラム]ー[Sharp Zaurus 2]ー[Intellisync for Zaurus]ー[環境設定]をクリックします。**
「Intellisync for Zaurus環境設定」画面が表示されます。

MEMO
- 手順**1**の代わりにIntellisync for Zaurus フォルダの「環境設定」をダブルクリックしても、同じ働きをします(☞32ページ)。

2 **「メール」をクリックして選択し、[選択...]をクリックします。**
「アプリケーションの選択」画面が表示されます。

3 **使用しているメールソフト(ここではMicrosoft Outlook)をクリックして選択し、[OK]をクリックします。**
「Intellisync for Zaurus環境設定」画面に戻ります。

4 **[詳細 ▼]、[詳細設定]をクリックします。**
「メールの詳細設定」画面が表示されます。



5 **必要に応じて設定を変更し、[OK]をクリックします。**
「Intellisync for Zaurus環境設定」画面に戻ります。

6 **[OK]をクリックします。**
「Intellisync for Zaurus環境設定」画面が閉じます。
これで、設定の変更が完了しました。

フィールドの対応関係を確認または変更する

フィールドとは、1つのデータを構成する各要素の名前です。
たとえば、ザウルスの「カレンダー」のデータは、「開始日」「開始時刻」「終了日」「終了時刻」などの各フィールドからできています。パソコンのアプリケーションのデータも、ザウルスのアプリケーションのデータも、各フィールドから構成されています。
現在のフィールドの対応関係は、下記の手順*1*～*4*の操作で確認できます。
通常は初期設定で差し支えありませんが、自分のスタイルに合わせて、シンクロナイズするときのフィールドの対応関係を変更することができます。

MEMO
- アプリケーションの組み合わせが設定されていないときは、フィールドの対応関係を変更できません。あらかじめザウルスのアプリケーションと、シンクロナイズするパソコンのアプリケーションを選択してください。

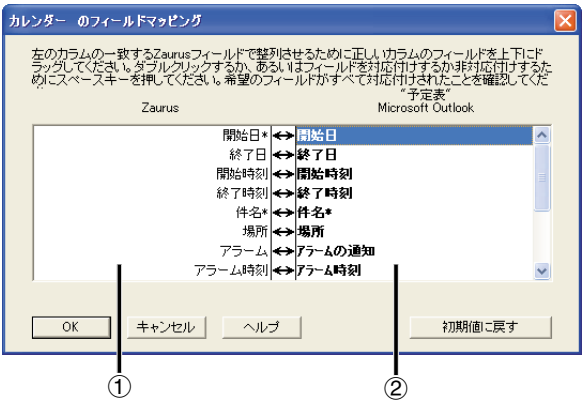
1 **[スタート]ボタンをクリックし、[(すべての)プログラム]ー[Sharp Zaurus 2]ー[Intellisync for Zaurus]ー[環境設定]をクリックします。**
「Intellisync for Zaurus環境設定」画面が表示されます。

MEMO
- 手順*1*の代わりにIntellisync for Zaurusフォルダの「環境設定」をダブルクリックしても、同じ働きをします(☞32ページ)。

2 **「Zaurus アプリケーション」の欄で、アプリケーションの組み合わせ(ここではカレンダーとMicrosoft Outlook)をクリックして選択し、[詳細 ▼]、[詳細設定]をクリックします。**
「カレンダーの詳細設定」画面が表示されます。

3 **[フィールドマップ]をクリックします。**
確認メッセージが表示されます。

4 **表示された説明を読んで[OK]をクリックします。**
「カレンダーのフィールドマッピング」画面が表示されます。



①ザウルスの「カレンダー」のフィールドの一覧です。
②Microsoft Outlookの「予定表」のフィールドの一覧です。

5 **必要に応じて、Microsoft Outlookの「予定表」のフィールドを変更します。**
フィールドはドラッグアンドドロップで移動できます(移動できない場所もあります)。
また、隣り合ったフィールドをマップするにはフィールド間をクリックし、マップされたフィールドのマップを解除するにはフィールド間の矢印をクリックします。

6 **[OK]をクリックします。**
「カレンダーの詳細設定」画面に戻ります。

7 **[OK]をクリックします。**
「Intellisync for Zaurus環境設定」画面に戻ります。

8 **[OK]をクリックします。**
「Intellisync for Zaurus環境設定」画面が閉じます。
これで、設定の変更が完了しました。

ご購入時の状態に戻すときは

「フィールドマッピング」画面で[初期値に戻す]をクリックします。
確認メッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。
これで、初期設定のフィールドマップに戻ります。

データの矛盾が発生したときの解決方法を設定する

データの矛盾(☞23ページ)が発生した場合、初期設定では「矛盾が起こったときに通知する」ように設定されています。以下の操作で、この設定を変更することができます。

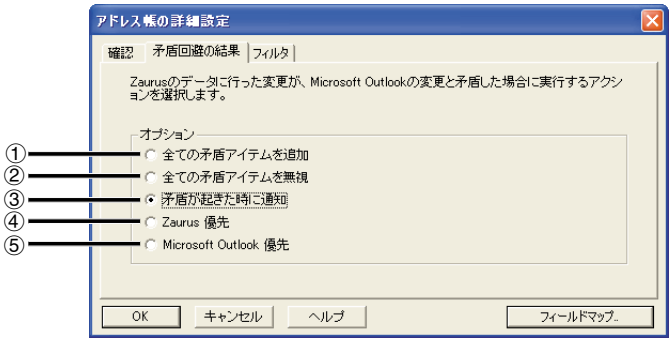
MEMO
- アプリケーションの組み合わせが設定されていないときは、解決方法の設定を変更できません。あらかじめザウルスのアプリケーションと、シンクロナイズするパソコンのアプリケーションを選択してください。

1 **[スタート]ボタンをクリックし、[(すべての)プログラム]ー[Sharp Zaurus 2]ー[Intellisync for Zaurus]ー[環境設定]をクリックします。**
「Intellisync for Zaurus環境設定」画面が表示されます。

MEMO
- 手順**1**の代わりにIntellisync for Zaurusフォルダの「環境設定」をクリックしても、同じ働きをします。

2 **アプリケーションの組み合わせ(ここではアドレス帳とMicrosoft Outlook)をクリックして選択し、[詳細▼]、[詳細設定]をクリックします。**
「アドレス帳の詳細設定」画面が表示されます。

3 **「矛盾回避の結果」タブをクリックします。**



①異なる値の入っているデータが新たに作成され、パソコンとザウルスの両方に追加されます。
②パソコン、ザウルスのいずれにも変更は加わりません。
③矛盾が発生するたびに、「矛盾回避の結果」画面が表示されます。
④常に、ザウルスのデータが優先されます。
⑤常に、パソコンのデータが優先されます。

MEMO

- 同じデータに対し、パソコン側とザウルス側で「修正」と「削除」が同時に行われた場合は、③以外の設定になっていた場合でも、「修正」が優先されて実行されます。
  たとえば、上記④の設定のとき、同じデータに対してパソコン側で「修正」し、ザウルス側で「削除」したとき、パソコンからザウルスにそのデータが追加されます。

4 **オプションからいずれかをクリックして選択し、[OK]をクリックします。**
確認メッセージが表示されます。

5 **[OK]をクリックします。**
「Intellisync for Zaurus環境設定」画面に戻ります。

6 **[OK]をクリックします。**
「Intellisync for Zaurus環境設定」画面が閉じます。
これで、設定の変更が完了しました。

インポートとエクスポートについて

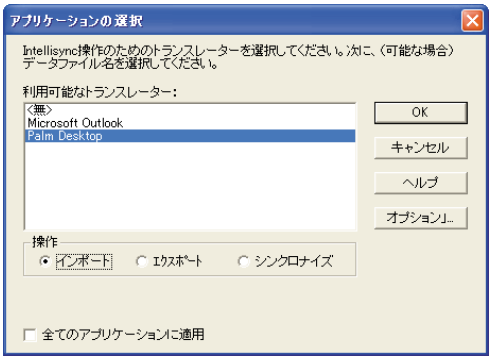
Intellisync for Zaurusでは、シンクロナイズ機能のほかに、「インポート」と「エクスポート」と呼ばれる動作モードがあります。

インポートとは、パソコン側のデータをザウルスに反映することです。
エクスポートは、ザウルス側のデータをパソコン側に反映することです。

パソコンからザウルスへ、またはザウルスからパソコンへ一方向にデータを反映させるときに便利な機能です。

インポートとエクスポートの設定と実行の方法

インポートを設定するには、シンクロナイズと同様、「Intellisync for Zaurus環境設定」画面から各アプリケーションごとに「アプリケーションの選択」画面を表示します（18ページの手順***1***～***2***を参照してください）。



この「アプリケーションの選択」画面の「操作」のところで「インポート」または「エクスポート」を選択します。
設定後、「アプリケーションの選択」画面、「Intellisync for Zaurus環境設定」画面で［OK］をクリックして閉じて、シンクロナイズのときと同様に、［スタート］をクリックし、［（すべての）プログラム］－［Sharp Zaurus 2］－［Intellisync for Zaurus］－［シンクロナイズ開始］をクリックすると、インポートまたはエクスポートが実行されます。

インポートとエクスポートの動作に関する注意事項

- ザウルスを初期化した直後にインポートまたはエクスポートを実行したときで、それまでにインポートまたはエクスポートを利用したことがあった場合には、データを双方向に反映するシンクロナイズとして動作します。

- インポート／エクスポートの実行中データの書き込み時に中断（キャンセル）された場合には、次回のインポート／エクスポートで、双方向にデータが追加されることがあります。

- パソコン側とザウルス側で同一データに対して削除／修正が行われたときには、シンクロナイズ時と同様に「～の修正内容を確認してください」画面が表示されます。
  インポート時、ザウルス側で削除されたデータがパソコン側に存在すれば、パソコンからザウルスへ追加されます（ザウルス側で削除直後にシンクロナイズをする場合は除きます）。

  例：パソコン、ザウルス両方にデータA､B､Cがあるとします。
  ①ザウルス側でデータBを削除する
  ②インポートを実行する → 双方のデータに変化はない
  ③再度インポートを実行する → データBが、パソコンからザウルスに追加される

- 「アプリケーションの選択」画面の「操作」の切替え後の動作は、次のとおりです。シンクロナイズ、インポート、エクスポートの操作の切り替え直後にシンクロナイズを開始すると、データの整合性を取るため、特別な動作となります。

  ・シンクロナイズからインポートへの切り替え直後のシンクロナイズ時
  ザウルス側にないデータがパソコンからザウルスへ追加されます。

  ・シンクロナイズからエクスポートへの切り替え直後のシンクロナイズ時
  パソコン側にないデータがザウルスからパソコンへ追加されます。

  ・インポートまたはエクスポートからシンクロナイズへの切り替え直後のシンクロナイズ時
  パソコンとザウルス双方のデータが比較され、不足している方に追加しにいきます。

付録

よくあるお問い合わせ

Q シンクロナイズができない

A

- USBケーブルやクレードル（SL-B500の場合）にセットしたザウルスの電源が入っていますか。
  なお、シンクロナイズを行うときは、常にACアダプターを接続しておいてください。
- 通信方法の設定がパソコン側とザウルス側で合っていますか。
  ザウルスに付属のインストールCD-ROMからパソコン用ソフトをインストールしたとき、通信方式として「USB接続（シリアル通信）」と「USB接続（ネットワーク）」のどちらを選びましたか。
  そのときに選んだ通信方式が、ザウルスの「PCリンク」画面で設定されている必要があります。パソコン側の通信方式は「ザウルス通信マネージャー」画面で確認できます。（☞11、15ページ）
  パソコン側とザウルス側で通信方式の設定が異なると、通信できません。
- 一度、ザウルスの電源を切ってUSBケーブルまたはクレードル（SL-B500の場合）からザウルスを取り外し、30秒経ってから再度取り付け、電源を入れてみてください。
- Intellisync for Zaurus環境設定画面が開いたままになっているとシンクロナイズが開始されません。閉じてから再度シンクロナイズを行ってください。
- Palm Desktopとの間でシンクロナイズを行うとき、Palm Desktopソフトウェアのウィンドウが開いたままではありませんか。Palm Desktopソフトウェアを終了させてからシンクロナイズを実行してください。
- ザウルスがUSBポートを介してパソコンに認識されていない、あるいはUSBドライバーがパソコンに正しくインストールされていないことが考えられます。また、通信方式が「USB接続（ネットワーク）」の場合、パソコンのネットワーク環境が適切でないことが考えられます。詳しくは、ザウルスに付属のインストールCD-ROMに収録のオンラインマニュアル『困ったときは.pdf』の「パソコンと接続できない場合の確認事項」および「確認事項の詳細手順」を参照ください。

Q Intellisync for Zaurusで以前はシンクロナイズできていたのに、急にできなくなったときは

A

●次の操作をひとつずつ試してみてください。

① ザウルスの電源をいったん切り、約30秒後に再び電源を入れる。

② パソコンを再起動する。

③ ザウルス本体をリセットする(『取扱説明書』「付録」の章、「異常が起きたとき」の中の「②リセット操作をする」の項をご覧ください)。

④ ザウルス本体メモリーのデータ異常チェックを行う(『取扱説明書』「付録」の章、「この製品をメンテナンスする」の中の「異常チェックをする」の項をご覧ください)。

⑤ ザウルス側で「シンクロ情報のクリア」を行う。

シンクロ情報クリアのしかた

ザウルスのPCリンク画面で、[シンクロ情報のクリア]にタッチし、確認画面で[はい]に、続いて完了画面で[OK]にタッチする。

ご注意 ●[シンクロ情報のクリア]を実行した後、再びIntellisync for Zaurusとの間でシンクロナイズを行うと、ザウルス側とパソコン側の両方でデータが二重に登録されることがあります。

Q シンクロナイズを実行しても、データが転送されていないときがあるのは、どうして?

A

●パソコンに保存しているデータファイルが壊れているのかも知れません。

ファイルを作成したアプリケーションでサンプルデータを新規作成し、もう一度、シンクロナイズしてみてください。うまくシンクロナイズできるようであれば、元のデータファイル自身が壊れている可能性が高いです。

場合によっては、「アドレスを変更します」などの確認画面で[再シンクロ]をクリックして完全再シンクロナイズ(再シンクロ)すると、壊れたデータファイルをリストア(復元)できる可能性があります。

Q パソコンからザウルスに長文のメールを転送したあと、ザウルスで内容を確認したら、メールの本文がとぎれていた。どうしてこうなるのか?

A

●ザウルスに転送できるメールの大きさには制限があります。転送可能なメールのサイズは32Kバイト(全角で約15,000文字)であり、それを超える部分は切り取られます。

Q パソコンからザウルスに、データの読み込みだけがしたい。何かいい方法はない?

A

- 「アプリケーションの選択」画面で、インポート(読み込み)を選んでください(☞19ページ)。あとの操作は、シンクロナイズの設定・実行と同じです。
  - ・インポート(読み込み):パソコンからザウルスにデータが読み込まれます。
  - ・エクスポート(送り出し):ザウルスからパソコンにデータが送り出されます。
  - ※インポートとエクスポートについてくわしくは、43ページおよびヘルプをご覧ください。

Q 誤ってパソコンのデータを削除したあと、シンクロナイズを開始してしまった。ザウルスに保存している、対応するデータも削除されてしまうのか?

A

- 一方にデータがあるのに、もう一方に対応するデータがない場合、このソフトウェアは「アドレスの削除を確認してください」などの確認画面を表示します(初期設定)。[適用]をクリックしないでください。もう一方(ここでは、ザウルス)からもデータが削除されてしまいます。
- 「アドレスの削除を確認してください」などの確認画面が表示されたら、[再シンクロ]をクリックしてください。**完全再シンクロナイズ**が実行されます。通常のシンクロナイズと異なり、完全再シンクロナイズはザウルスのデータを削除しません。ヒストリファイルを元に、パソコンにデータを追加します。

Q シンクロナイズの仕組みはどうなっているの?

A

- このソフトウェアは、パソコンのデータとザウルスのデータを比較し、必要な変更を行い、両方の機器が同じデータを持つようにします。処理の過程で、比較・変更のベースになるのが、**ヒストリファイル**です。
- ヒストリファイルは、最初にシンクロナイズを実行したとき自動的に作成されます。2回目以降のシンクロナイズはヒストリファイルを使用してデータが比較・変更され、ヒストリファイル自身も更新されます。2回目以降のシンクロナイズが、最初のシンクロナイズより短時間で済むのは、既存のヒストリファイルを使用しているからです。
- ヒストリファイルを使用することで、このソフトウェアは、一方のデータが編集されているときはもう一方のデータにも同様の変更を加えます。一方のデータが削除されているときは、もう一方のデータも削除します。このようにして、パソコンのデータとザウルスのデータが、常に最新で、同じになるようにしています。

困ったときは

■ インストールできない

■ 起動できない

- お使いのパソコンが動作環境を満たしているか、もう一度確認してください（☞8ページ）。
- Windows XP/ Windows 2000をお使いの方は、管理者権限（システムの管理者またはAdministrator）でログインしてしてください。

■ 通信できない

■ 通信がとぎれる

■ 通信エラーの画面が表示された

- ザウルス本体に付属の『はじめにお読みください』に従って、USBドライバーを、インストールされましたか。まだでしたら、インストールしてください。
- ザウルスとパソコンをつなぎ直してみてください。ザウルスの電源を入れた直後に接続しても、データ通信できません。オープニング画面が終わるのを待ってから接続してください。
- お使いのパソコンに複数のUSBコネクターがあるときは、他のUSBコネクターに接続してみてください。
- パソコンに他のUSB機器を接続して同時に使用しているときは、使用を一時停止し、その機器を取り外してください。
  サスペンド、レジューム、スリープなどのパワーセーブモードをオンにしているパソコンでは、USBコネクターが動作しないことがあります。パワーセーブモードをオフにしてください。
- USBハブに接続しているときは、パソコンのUSBコネクターに直接つないでみてください。
- シンクロナイズ中に、Outlookがメールの送受信を開始すると、シンクロナイズが異常終了することがあります。その場合は、再度シンクロナイズを行ってください。

■ シンクロナイズが正しく実行されない

- 設定に誤りがないか、「Intellisync for Zaurus環境設定」画面や「アプリケーションの選択」画面をもう一度確認してください(☞19ページ)。
- ザウルスのメモリーの空きを確認してください。メモリーの空きが不足していると、正しくシンクロナイズされません。
- シンクロナイズの実行中に、ザウルスを操作していませんか。シンクロナイズの実行中は、ザウルスを操作しないでください。

■ ザウルス側からシンクロナイズを開始できない

- パソコン側で、次の2つの設定が行われていないと、ザウルス側からシンクロナイズを開始することはできません。
  - ・「ザウルス通信マネージャー」画面の「常駐設定」欄の「ザウルス通信マネージャーを常駐する」にチェックが入っていること(☞11ページ)
  - ・「クレードル起動設定」で「クレードルからの起動」欄が「する」に設定されていること(☞14ページ)

■ Outlook Expressとメールのシンクロナイズができない

- このソフトウェアは、Outlook Expressとのシンクロナイズをサポートしておりません。

■ メールの添付データがシンクロナイズできない

- 「Zaurus オプション」画面で「メールの添付ファイルをシンクロ対象にする」にチェックが入っていないと添付データはシンクロナイズされません(☞27ページ)。

■ メモ帳をシンクロナイズしたのに、ザウルスのメモ帳にデータが転送されていない

- ザウルスのメモ帳でシンクロナイズの対象となるのは「Memoタブ」のみです。「Memoタブ」を開いてご確認ください。

■ メモ帳(Memoタブ)の1行目やカレンダーの「件名」、ToDoの「内容」の各欄のデータが、全角126文字までしかシンクロナイズされない

- 全角126文字までがシンクロナイズの対象となります。

■「予期しないデバイスの取り外し」画面が表示された

Microsoft Windows XP/2000をお使いの方へ

- USB接続（ネットワーク）で接続している場合は、パソコンとザウルスとが通信状態にないときであっても、USBケーブルを外したり、ザウルス本体をクレードルから取り外したり（SL-B500の場合）、ザウルスの電源を切ったり、クレードルのUSBコネクターをパソコンから取り外す（SL-B500の場合）と、Windows 2000ではアラートメッセージが表示されます（Windows XPでは通常表示されません）。これらを安全に取り外すために、次のように操作してください。

  （Windows XPの場合）

  先にタスクバーの  をクリックして「SLseries Ver3（NDIS 5）を安全に取り外します」をクリックし、確認メッセージが表示されてから取り外してください。

  （Windows 2000の場合）

  先にタスクバーの  をクリックして「SLseries Ver3（NDIS 5）を停止します」をクリックし、確認メッセージが表示されてから取り外してください。

■ シンクロナイズしたデータが文字化けしている

- データに、シンボル文字や欧文文字の一部、特殊文字などが使われていませんか。こうした文字種が使われていると、文字化けが発生したり、データが壊れたりすることがあります。

■ 古いデータがシンクロナイズされない

- このソフトウェアがシンクロナイズの対象とするのは1980年1月1日（GMT）～2037年12月31日（GMT）までのデータです。この期間を外れるデータはシンクロナイズされません。

■ 2度目のシンクロナイズなのに、時間がかかる

- 最初のシンクロナイズのときに通信エラーが発生していませんか。最初のシンクロナイズで通信エラーが発生したときは、ヒストリファイルは作成されません。次回のシンクロナイズで作成されるため、少し時間がかかります。
- 前回のシンクロナイズで中断したときも、データの整合性をとるため、シンクロナイズ処理中だったアプリケーションに対しては完全再シンクロナイズ（すべてのデータを比較する）が実行されるため、時間がかかります。
- 「シンクロナイズ」、「インポート」、「エクスポート」のモードを切り替えた直後も再シンクロナイズとなるため、時間がかかります。
- ザウルスのPCリンク画面で［シンクロ情報のクリア］にタッチしてシンクロナイズ情報のクリアを実行したときには、完全再シンクロナイズが実行されるため、時間がかかります。

■ このソフトウェアの動作が不安定になった

- ウイルス対策ソフトやファイアウォールソフトを使っていませんか。シンクロナイズをするときは、ウイルス対策ソフトやファイアウォールソフトを、停止させるか無効に設定してください。
- パソコンの日時設定を変更しませんでしたか。パソコンの日時設定を「日付と時刻のプロパティ」で変更したときは、このソフトウェアを再インストールしてください

■ Palm OS搭載機に保存しているデータを移せない

- あらかじめ、Palm OS搭載機に保存しているPIMデータを、Palm Desktopソフトウェアの HotSync機能を使ってパソコンに移してください（Palm Desktopソフトウェアは、Palm OS搭載機に付属）。

■ ザウルス側のメモリーカードにデータを転送できない

- Outlook側の連絡先、予定表、仕事、メモ帳のデータは、ザウルス側のメモリーカードに直接転送することはできません。
- メールのシンクロナイズおよびインポート/エクスポートでは、ザウルス側のコンパクトフラッシュメモリーカードまたはSDメモリーカード内のメールデータ（「シンクロナイズ」メールフォルダ）を対象にすることができます（☞25ページ）。

■ フィールドの対応関係を変えているうちに、よくわからなくなった

- フィールドの対応関係をリセットしてご購入時の状態に戻してください（☞40ページ）。

■ シンクロナイズ後、ザウルス側のアプリケーションの設定が初期値に戻ってしまった

- ToDoやアドレス帳などのアプリケーションの「分類」や「表示」などの設定値はシンクロナイズの後、初期の設定内容に戻ります。シンクロナイズ終了後はさまざまな情報が書き換わるために、そのように設定されています。

■ シンクロナイズを実行する必要性がなくなった

- Intellisync for Zaurusとザウルスとの間で何回かシンクロナイズを実行し、以後シンクロナイズを実行する必要がなくなった場合には、必要に応じてIntellisync for Zaurusをアンインストールしてください（☞10ページ）。また、ザウルスの「PCリンク」画面で［シンクロ情報のクリア］にタッチして、ザウルスに記憶されているシンクロナイズ情報をクリアします（クリア後に再びシンクロナイズを実行すると、最初からのシンクロナイズとなります）。

さくいん

記号・その他

Intellisync for Zaurus フォルダ... 32
Microsoft Outlook ..... 2、17
OS ..... (対応OSの項)
Outlook..... (Microsoft Outlookの項)
Palm ..... (Palm OS搭載機の項)
Palm Desktop ..... 2、33
Palm OS搭載機 ..... 2、33
PCリンク 15
USB接続(シリアル通信) 11
USB接続(ネットワーク) ..... 5、12
USBドライバー 45
Zaurusオプション 26

あ行

アプリケーションの選択 19
アンインストール 10
暗証番号 12
インポート ..... 34、43、47
インストール ..... 9、48
ウイルス対策ソフト 5
エクスポート 43

か行

環境設定 18
完全再シンクロナイズ .. 23、47、50
キーフィールド 23
クレードル ..... 22、31
クレードル起動設定 ..... 14、32

さ行

ザウルスIPアドレス 12
ザウルス通信マネージャー 11
削除 ..... (アンインストールの項)
シンクロ情報のクリア 46
シンクロナイズ
　実行 ..... 21、27、51
　設定 ..... 18、26、38
　停止 22
　通信設定 11

た行

対応OS 8
通信設定 11
通信方式 ..... 12、15、45
データの矛盾 ..... 23、41
添付ファイル ..... 22、26、27
動作環境 8

は行

パスワード環境 20
パスワード設定 20
ヒストリファイル ..... 22、47
ファイアウォールソフト 5
フィールド 39
フィールドマップ 39
フィルタ 28

ま行

矛盾回避 ..... 22、37、41
メールフォルダ一覧 25